

佳作

優つた日々を気付いた日々

静岡県富士宮市立富士宮第三中学校一年 山口幸乃

セミの鳴き声が少しずつ聞こえ始め、夏を感じる頃、私の父が入院することになってしまいました。仕事中的事故で、けがをしてしまったのです。完治するまでに時間がかかるらしく、がまん強い父が

「痛い。」

と弱音をもらしていたのでとても心配になりました。

私の父は休日があまりないので、見舞いに来てくれた人たちが、口々に

「いつも忙しくしていたんだから、長い休暇だと思って、ゆっくり休んだらいいよ。」

と言っていました。それから、よく

「仕事があつて忙しくていいね。」

と言われているのを聞き、私は、少し不思議に思いました。忙しいと自分の時間はほとんどんげずられ、自由がなくなるばかりではないかと思ったからです。しかし、病院で出会った人たちとの交流で、私の考えは間違っていたと気付きました。

父の病室のとなりの部屋に入院していたおじいさんが、自分の足腰が痛むはずなのに、私や私の弟にとっても優しくしてくれました。そのおじいさんは、リハビリの合間などに、七夕の飾りを作ってくれたり、私たちに作り方を一生懸命に教えてくれました。患者さんなのに、あっちに行ったりこっちに行ったりと、忙しそうなおじいさんは、いつも笑顔でした。私がなかなか作り方を覚えられなくて、それでも根気よく何度も教えてくれるので、申し訳ない気持ち

でいっぱいになっていると、そのおじいさんは笑顔で

「作り方を覚えたいと言ってくれて凄く嬉しいんだよ。」

と言ってくれました。私はその言葉を聞いて、忙しい事は幸せなことなんだと、考え方が変化していきました。勉強・部活・塾。そして友人との予定など、ぎっしり詰まった時間を振り返ってみると、とても充実していたことに気付いたのです。私は自分のために自分の時間をつかっているだけですが、そのおじいさんは自分の時間を私たちのためにつかってくれました。

「あの優しい笑顔は、いろんなことを経験しなければ出来ない笑顔だね。」

と、父も母も言っていました。

人のためや、自分以外の何かのために動けるということは、自分で自分のことがしつかり出来ないければ、人のために動くことなんて出来ないと思います。私も忙しく、そして充実した毎日を送り、そして、いつかあのおじいさんのような優しい笑顔が自然と出てくる人になりたいと思います。

大変忙しい日々幸せ。ということに気付くことができた中学校生活初めての夏休みでした。